

「年功序列」社会と「能力主義」社会



魚本 健人
論説委員
芝浦工業大学 教授

少子高齢化が進行している今日、土木分野ばかりでなく、これからの我が国をどのようにしていくべきかを考えることははなはだ大切である。その場合に年配の学識者の意見がマスコミなどに良く取上げられているが、二十歳前後の人々の意見をあまり耳にすることはない。例えば今まで我が国では当たり前と考えられてきた「年功序列」社会を「能力主義」社会に改変するという傾向も、最も影響を受ける若い人々の意見をあまり考慮しているとはいえないと考えられる。というのは今までの「年功序列」社会では若いうちは半人前扱いをされ給与面でも権限でも損をしているが、年配者になると管理者になるように配置され、給与面でも権限でも厚遇されるという体系が採用されてきた。若い時は苦勞しても長年勤め上げればそれなりに得をすることを知らせることで、「技術の伝承と継続」の大切さを教える「年功序列」社会の秩序が保たれてきたといえよう。しかし、「能力主義」社会ではどのようになるのかはあまり知らされていない。学生に就職先に関する意見を求められた場合にも、自分には「能力主義」や「成果主義」での生活経験がなく、アドバイスしにくい場合が多々ある。情報としてわかるのは総務省統計局の就業構造基本調査でも 20 歳から 29 歳までの転職率は男性で各年代の合計が 20%以上、女性で 25%以上（平成 14 年）にもなっていることである。その原因の主たるものは「収入が少ない」、「時間的、肉体的負担が大きい」となっている。これは建設分野だけの統計ではないが、我が国の将来を考えると大きな問題であるといえよう。

「能力主義」社会は若い人がその能力を発揮しやすい面があり、少子高齢化の時代にうまくフィットする点も多い。経営手法などを勉強した人は、若くして人の管理や企業の経営に関与できる可能性があり、マスコミなどで取上げられている 20-30 歳代の若い取締役や社長などの話を聞いて感心することも多々ある。我が国の活性化にも役立つとともに、新たな社会を構築することができるといえよう。我が国でも、官公庁などでは昔から上級、中級、というように採用時から分けられていて、一種の「能力主義」がすでに体制となっている。大学でも教授、准教授、助教、助手と分かれていて、一種の「能力主義」が採用されている。しかし、企業の経営にあまり関心のない現場等に配属される土木技術者にとってこの「能力主義」社会のメリットは何であろうか？ 多くの場合、昇任するためには国家資格である技術士、一級土木施工管理技士やその他の資格をとることが重要な要件になりつつあると聞いている。

従来の「年功序列」社会であれば、建設会社の新入社員は数年間設計の一部、施工の一部をこつこつとやらされ、その仕事を何度も繰り返して少しずつ仕事を覚えるという方法が取られてきた。この間に世の中の厳しさ、自分の行える業務の少なさをいやというほど思い知らされる。結果的に、「技術の伝承と継続」には大きな効果がある。しかし、当然、構造物全体の設計や施工について計画段階から関与することはない。しかし、計画系の勉強を行ってきた学生やある程度ルーチン作業をマスターした若い技術者にとっては、計画段階から関与することには別の面白さがあり、企業に対してもより多くの貢献をすることができる場合もある。「能力主義」社会では、従来ある年齢にならないと関与できなかった業務に早くから関与することが可能となり、権限と責任が任されるのであれば仕事に対する取組み方も大きく変わる可能性がある。結果的に今までよりも少ない数の技術者であっても適材適所に配置すればかなりの量の仕事をこなすことが可能となる。

しかし、職務権限や責任が重くなっても給与体系が従来のままでは見返りが少ない。やはり多少の違いはあっても給与は行っている「職務」に対して支払われることが必要であろう。特に土木技術者のようになかなか世間では評価されていない専門技術者を育てるためにも、「能力主義」による高い評価とそれに見合う高賃金を支払うことは重要なことであると考えている。留学生などがその良い例で、折角高い学力を身につけていても我が国では相対的に低い賃金しか支払われていないため、優秀な技術者が我が国では定着していない。我が国の「年金問題」もそうであるが、若い人が損をし、歳をとれば得をするという社会システムは、これからはうまく機能しない可能性がある。今後大幅な経済成長が見込めない我が国では、早晚「年功序列型」システムは崩壊する可能性があるが、「能力主義」をより進めると米国に見られるような「転職」をすることでよりステップアップするような社会にまで変化しうる。我が国のように他にはない優れたものを作ることで成長を維持してきた国では、ただ単に「年功序列型」社会を排除するのではなく、「技術の伝承」などの従来の良い面を残しつつ、欧米にはない新しい「能力主義」社会システムを作り上げることが必要ではないか。「年功序列」社会で育った人間にとっては理解しにくく、また不都合なことも多いが、社会の変革が求められている今日、新しい考え方で社会全体を新しい「能力主義」社会に変換していくことは少子高齢化の時代にあったシステムの一つであると考えられる。

本文で記したようなことは自分ではあまり考えてこなかった問題であり、誤りもあると思われる。是非、土木技術者の皆さんの忌憚のないご指摘やご意見を伺えればと考へ記述したものである。